

保育所における食育に対する保護者の満足度と 家庭での食育との関連

酒井 治子 廣瀬 志保

保育所における食育に対する保護者の満足度と家庭での食育との関連を検討するために、全国8園の3歳児クラスの保護者を対象に質問紙調査を実施し（有効回答182名）、次の点が明らかになった。

保育所の食事・食育に対して保護者は「とても満足している」と答えた人が73.5%と高かった。食育の満足度高群では中・低群に比べ、保育所が、子どもの食事の様子や日々の食育の意図を伝達すること、園だよりなどにより食育の報告をすること、食に関する相談をする等の支援への満足度も高かった。さらに、保育所の食育満足度の高い保護者の子ども程、家庭で保育所の食育について話をしていること、また、保護者が「お腹がすくりズムができていくこと」「食べたいもの好きなものが増えること」に対する重要性の認識が顕著に高い結果が得られた。以上、保育所での食を通して子どもの育ち、及び保護者支援が保護者の家庭での食育の重要性の認識を高めている関連性が示された。

キーワード：保育所 家庭 食事 食育 満足度

1. 目的

子どもの健やかな育ちを保証するためには、保育所における子どもの食育への支援は当然のことながら、家庭との連携を欠かすことができない。子ども達の家庭での食事への支援は子育て支援の一環であり、保育士としても業務の一部であるとはいえ、保育現場にとって家庭での子どもの食育になかなか踏み込みにくいのが現状である。

実際に、食に関する子育ての不安・心配をかかえる保護者は決して少なくない。保護者の食行動、食知識・スキルの不足が家庭での食事や食育に対する不安にも影響を及ぼすという報告¹⁾もみられる。また、こうした不安は単なる食事のことだけでなく、子育てそのものを意味することが多い。そのために、「家庭での食」に目を向けることは、不適切な養育の兆候を発見・予防することにもつながることを実際の保育現場でも実感する

ことができる。

平成21年4月施行の「保育所保育指針」²⁾の一つの柱として、保育所の保育士等の役割として保護者に対する支援が重視された。食育に関しても、今まで保育所で蓄積してきた乳幼児期の子どもの「食」に関する知識、経験、技術を「子育て支援」の一環として提供し、保護者と子どもの育ちを共有し、健やかな食文化の担い手を育ていくことが求められている。その担い手としては、食に関する援助についても、保育指導は保育士が、栄養指導は栄養士が、保健指導は保健師が、それぞれの専門性を活かした対応と、一体的な支援が望まれている。

このような社会的な仕組みづくりが進むと共に、家庭での食の実態や保護者からのニーズ、それを受けた保育者から、保育所において食を通して子どもの発達支援と、保護者の支援の両輪を実践していくことへの重要性の認識が深まっている。

著者らは保育所での食育のプログラムの開発に取り組み、それが家庭での食行動や保護者の食態度への影響を検討してきた³⁾。その中で、保護者の食態度の向上はみられたが、子どもの食行動への影響に関しては保護者の就労等のライフスタイルの影響が大きく、食育が直接的な効果をもたらすとは言えないことも明らかになった。

食育は政策的な動きの基盤整備は進む一方で、その方法論はもちろんのこと、効果についての十分な検証が進んでいるとはいえない。保育所で実践されている食を通した子どもの発達支援(食育)を保護者がどのように評価しているか、また、保護者が求めている活動とはどのようなものか、さらには、それが家庭での食育にどのような影響をもたらす可能性が高いかについては十分な検討が進められていく必要がある。

そこで、本報では、保育所の食育が家庭での食育への波及効果を探るために、1) 保育所での子どもの食育に対して保護者が満足しているのかどうか、2) 保育所の食を通した保護者支援に対し

て保護者がどのように評価しているか、3) 保育所での子どもの食育を子どもは家庭に伝えているのか、4) 家庭において、食育として保護者は何を重視しているのか、また、この2～4) が園の食事・食育への満足度と関連しているのかを検討することを目的とした。

2. 方法

対象園は日本保育協会の平成23年度保育所食育実践事例集⁴⁾にて実践事例活動を報告した園である。北海道、東京都、富山県、静岡県、兵庫県、山口県、徳島県、宮崎県からの各1園、計8園の3歳児クラスに在籍する園児の保護者を対象とした。対象年齢児は子どもの食発達も幼児期として安定した時期に入り、5歳児のように就学に関心が集まる前の段階で、保護者の食への興味が育ってきたと仮定できるためである。本調査の調査票は著者らが設計し、平成23年9月に質問紙調査を日本保育協会から依頼、回収し、その後の解析は著者らが担当した。配布数214名のうち、回収で

表1 調査の枠組み

大項目	中項目	小項目	質問番号	選択形式
親子の属性	子どもの属性	居住地 年齢 性別 出生順位 兄弟数 家族形態	問1	数値回答 2肢選択 数値回答 数値回答 2肢選択
	保護者の属性	回答者と子どもとの関係 回答者の年齢	問2-1) 問2-2)	4肢選択 5肢選択
家庭での育児・食育の状況	保護者の育児態度	育児の楽しみへの認識	問2-3)	3肢選択
	家庭での食育に関する保護者の食態度(重要度の認識)	お腹がすくリズムが確保できること	問3-1)	4肢選択
		食べたいもの、好きなものが増えること	問3-2)	4肢選択
		親や兄弟と、一緒に食べること	問3-3)	4肢選択
	食事づくりや準備にかかわること	問3-4)	4肢選択	
	食べものを話題にすること	問3-5)	4肢選択	
	保育所の食育内容についての子どもの会話の頻度	問6	4肢選択	
	朝食の摂食頻度	問7	4肢選択	
保護者の保育所での食育に対する評価	保育・食育内容への満足度	保育所での保育への満足度	問4-1)	4肢選択
		保育所での食育への満足度	問4-2)	4肢選択
	保育所での食育を通した保護者支援に対する評価	連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通した、保育所での子どもの様子や日々の保育の意図の伝達	問5-1)	4肢選択
		園だよりや園内の掲示などによる、保育所での食育実践への協力依頼・報告	問5-2)	4肢選択
	送迎時の対話や面談等による、食に関する相談や助言	問5-3)	4肢選択	
	保育所での食事・食育への意見・要望	問8	自由回答	

きた対象児数は男児87名、女児95名の計182名と、回収率は85.0%であった。

回答者は96.2%が母親で、30代が59.9%、40代が25.3%、20代が14.8%の順であった。園児の属性をみると、兄弟数は2人が51.1%と最も多く、次いで、1人、3人が同等であった。出生順位は2位の子どもが41.6%と最も多く、次いで、1位の子どもが多くみられました。家族との同居については、母親と同居していない子どもは0.6%、父親と同居していない子どもは11.2%みられた。祖父母と同居している子どもは全体では18.5%と少なかった。また、「育児は楽しくて幸せだと思いますか」の質問に対しては、「はい」と答えた人が全体で81.6%みられた。

表1は本調査の枠組みである。家庭での食育に関する保護者の食態度（重要度の認識）については、「保育所における食育に関する指針」^{5,6)}のめざす子ども像の項目を引用し、保育所での食育への評価については「保育所保育指針」の第6章の入園している園児の保護者への支援の内容を対応させた著者らの先行研究⁷⁾の指標を用いた。保育所の食育が家庭に及ぼす影響の一つとして、「保育所の食育内容についての子どもの会話の頻度」で評価することを試みた。

調査の集計には統計パッケージSPSS Ver.20.0を用いた。クロス集計には χ^2 検定を用い、p値が0.05未満を統計的に有意とみなした。

3. 結果

3-1 保育及び食事・食育内容への満足度

(1) 園の保育内容

保育内容について「とても満足している」と答えた人は66.5%、「満足している」と答えた人が

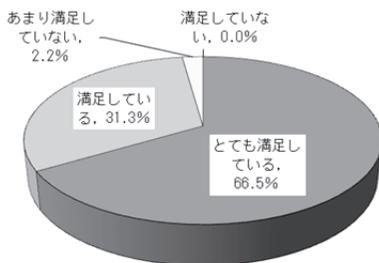


図1 保育内容に対する評価

31.3%、「あまり満足していない」と回答した人は2.2%、「満足していない」と回答した人はみられなかった（図1）。

(2) 園の食事・食育内容

園の食事や食育内容について「とても満足している」と答えた人は73.5%、「満足している」と答えた人が26.5%、「あまり満足していない」と回答した人、「満足していない」と回答した人はみられず、保護者から高く評価されていた（図2）。保育内容と比較して、食事・食育内容への満足度はほぼ同じ割合か、食事・食育内容への満足度の方が若干高い傾向がみられた。

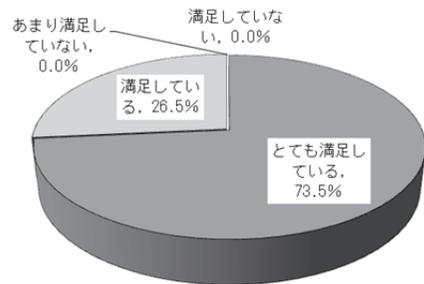


図2 園での食事・食育内容への満足度

(3) 園の保育内容と、食事・食育内容との関連

園の保育内容に「とても満足している」と回答した人では、食事や食育内容についても「とても満足している」と回答した人が95.8%と高かった。一方、保育内容に「満足している」または、「あまり満足していない」と満足度の低かった人では、食事や食育内容についての満足度も低かった。統計的有意差が認められ、園の保育内容と、食事・食育内容との関連が顕著であることが明らかになった（ $\chi^2=92.219$ p=0.000）。

次に、園の食事・食育内容に対して「とても満足している」と回答した人を高群、それ以外を中・低群として、保育所の食育内容についての子どもの会話の頻度、食を通した保護者支援に対する評価、家庭での食育に関する保護者の重要度の認識との関連について検討をすすめた。

表2 園の保育内容と、食事や食育内容との関連

		園の保育内容				合計
		とても満足している	満足している	満足していない	あまり満足していない	
とても満足している	度数	115	16	2	0	133
	構成比	95.80%	28.10%	50.00%	0.00%	73.50%
	調整済み残差	9.6	-9.4	-1.1		
満足している	度数	5	41	2	0	48
	構成比	4.20%	71.90%	50.00%	0.00%	26.50%
	調整済み残差	-9.6	9.4	1.1		
あまり満足していない	度数	0	0	0	0	0
	構成比	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	調整済み残差					
満足していない	度数	0	0	0	0	0
	構成比	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	調整済み残差					
合計	度数	120	57	4	0	181
	構成比	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%	100.00%
						$\chi^2=92.219$ p=0.000

3-2 園の食事・食育への満足度別 食を通して保護者支援に対する評価

「連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通して保育所での子どもの様子や日々の保育の意図を伝えてくれる」「園だよりや園内の掲示などを通して保育所での食育実践を報告してくれる」「送迎時の話や面談等で、食に関する相談をのってくれる」の3項目の内（図3）、「とてもあてはまる」と回答した人は、「園だよりや園内の掲示などを通して保育所での食育実践を報告してくれる」の項目で58.2%と高く、次いで、「連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通して、保育所での子どもの様子や日々の保育の意図を伝えてくれる」の項目で49.2%、「送迎時の話や面談等で、食に関する相談をのってくれる」「とてもあては

まる」の項目で27.8%の順であった。園だよりや掲示等の紙面媒体を通じた実践報告への実施率が高く評価されていること、一方、対面での相談・援助は実施度が低いと評価されていることが明らかになった。

保護者の園の食事・食育への満足度は、保護者にどのような支援をした結果から得られるのであろうか。表3に示したように、保育所での子どもの様子や日々の保育の意図の連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通して伝達の実施について、「とてもあてはまる」との回答は、園の食事・食育の満足度高群では58.3%であったが、満足度中・低群では25.0%に留まり、園の食事・食育への満足度による差がみられた（ $\chi^2=19.393$ p=0.000）。園だよりや園内の掲示などによる、保育所での食育実践への協力依頼・報告の実施について、「とてもあてはまる」との回答は、園の食事・食育にとっても満足している群で70.7%であったが、満足している群では22.9%に留まり、園の食事・食育への満足度による差がみられた（ $\chi^2=35.805$ p=0.000）。送迎時の対話や面談等による食に関する相談や助言の実施について、「とてもあてはまる」との回答は、園の食事・食育にとっても満足している群で37.1%であったが、満足している群では2.1%に留まり、園の食事・食育への満足度による差がみられた（ $\chi^2=28.140$ p=0.000）。

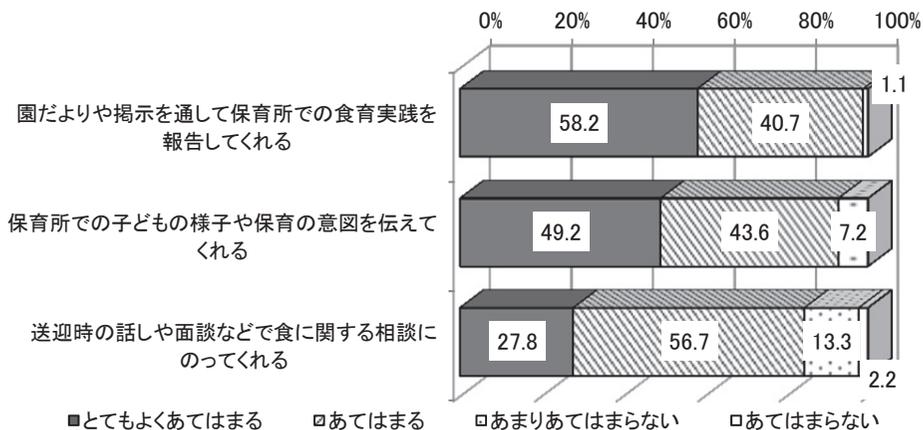


図3 保育所の食を通して保護者支援に対する評価

表3 園の食事・食育への満足度別 保育所における食を通した保護者への支援

		食事や食育内容		計	χ ² 検定
		高群 (n=132)	中低群 (n=48)		
保育所での子どもの様子や保育の意図を伝えてくれる	とてもよくあてはまる	度数 58.30%	12 25.00%	89 49.40%	χ ² =19.393 p=0.000
	構成比				
	調整済み残差	4	-4		
	あてはまる	37.90%	58.30%	43.30%	
	構成比				
	調整済み残差	-2.4	2.4		
あまりあてはまらない	3.80%	16.70%	7.20%		
構成比					
調整済み残差	-3	3			
計	132	48	180		
構成比	100.00%	100.00%	100.00%		
園だよりや掲示を通して保育所の食育の実践を報告してくれる	とてもよくあてはまる	70.70%	22.90%	58.00%	χ ² =35.805 p=0.000
	構成比				
	調整済み残差	5.7	-5.7		
	あてはまる	29.30%	72.90%	40.90%	
	構成比				
	調整済み残差	-5.3	5.3		
あまりあてはまらない	0.00%	4.20%	1.10%		
構成比					
調整済み残差	-2.4	2.4			
計	133	48	181		
構成比	100.00%	100.00%	100.00%		
送迎時や面談など食に関する話で話してくれる	とてもよくあてはまる	37.10%	2.10%	27.90%	χ ² =28.140 p=0.000
	構成比				
	調整済み残差	4.6	-4.6		
	あてはまる	53.80%	66.00%	57.00%	
	構成比				
	調整済み残差	-1.4	1.4		
あまりあてはまらない	7.60%	27.70%	12.80%		
構成比					
調整済み残差	-3.5	3.5			
あまりあてはまらない	1.50%	4.30%	2.20%		
構成比					
調整済み残差	-1.1	1.1			
計	132	47	179		
構成比	100.00%	100.00%	100.00%		

3-3 園の食事・食育への満足度別 保育所の食育内容についての子どもの会話の頻度

表4に示したように、「子どもは保育園での食事や食育活動について家庭で話しをしますか」の問に対して「よく話す」と回答した保護者は全体で24.4%、「ときどき話す」が55.6%、「あまり話さない」が16.7%、「ほとんど話さない」が3.3%であった。

保護者の園の食事・食育への満足度は、家庭で子どもが保育所の食育について会話をするところから得られるのであろうか。

園の食事・食育への満足度との関連をみると、満足度中・低群では高群に比べて、園での食育の話的家庭で「あまり話さない」園児が多くみられ、園の食事・食育への満足度と、保育所の食育内容

についての子どもの会話の頻度に有意な関連がみられた(χ²=10.114 p=0.018)。園での食育活動について子どもが家庭に伝達することが、保育所での食育の保護者の満足度に影響を及ぼしている可能性が示された。

表4 園の食事・食育への満足度別 保育所の食育内容の子どもの会話の頻度

		園の食事や食育内容		計
		高群	中低群	
よく話す	度数	36	8	44
	構成比	27.30%	16.70%	24.40%
	調整済み残差	1.5	-1.5	
時々話す	度数	77	23	100
	構成比	58.30%	47.90%	55.60%
	調整済み残差	1.2	-1.2	
あまり話さない	度数	16	14	30
	構成比	12.10%	29.20%	16.70%
	調整済み残差	-2.7	2.7	
ほとんど話さない	度数	3	3	6
	構成比	2.30%	6.20%	3.30%
	調整済み残差	-1.3	1.3	
合計	度数	132	48	180
	構成比	100.00%	100.00%	100.00%
		χ ² =10.114		p=0.018

3-4 保育所の食事・食育への満足度別 家庭での食育に関する保護者の重要度の認識

表5に示したように、お腹がすくリズムができていくことを家庭で「とても重視している」との回答は、園の食事・食育の満足度高群で15.9%であったが、満足度中・低群では6.2%に留まり、園の食事・食育への満足度による差がみられた(χ²=17.849 p=0.000)。食べたいもの好きなのが増えることを家庭で「とても重視している」との回答は、園の食事・食育の満足度高群では28.8%であったが、満足度中・低群では10.4%に留まり、園の食事・食育への満足度による差がみられた(χ²=9.896 p=0.019)。親や兄弟と一緒に食べることを家庭で「とても重視している」との回答は、園の食事・食育満足度高群で51.9%、満足度中・低群では41.7%と、園の食事・食育への満足度による差がみられなかった(χ²=5.796 p=0.055)。食事づくりや準備にかかわることを家庭で「とても重視している」との回答は、園の食事・食育の満足度高群で17.4%、満足度中・低群では16.7%と、園の食事・食育への満足度による差がみられなかった(χ²=0.799 p=0.850)。食べものを話題にすることを家庭で「とても重視

している」との回答も、園の食事・食育の満足度高群で14.3%、満足度中・低群で14.6%と、園の食事・食育への満足度による差がみられなかった($\chi^2=2.325$ $p=0.508$)。

表5 園の食事・食育への満足度別 家庭での食育に関する保護者の重要度の認識

		食事や食育内容の満足度		計	χ^2 検定
		高群 (n=132)	中低群 (n=48)		
お腹がすくリズムができていくこと	とても重視している	度数	21	3	$\chi^2=17.849$ $p=0.000$
		構成比	15.90%	6.20%	
		調整済み残差	1.7	-1.7	
	重視している	度数	85	21	
		構成比	64.40%	43.80%	
		調整済み残差	2.5	-2.5	
	あまり重視していない	度数	25	24	
		構成比	18.90%	50.00%	
		調整済み残差	-4.1	4.1	
	重視していない	度数	1	0	
		構成比	0.80%	0.00%	
		調整済み残差	0.6	-0.6	
食べたいものの好きなものが増えること	とても重視している	度数	38	5	$\chi^2=9.896$ $p=0.019$
		構成比	28.80%	10.40%	
		調整済み残差	2.6	-2.6	
	重視している	度数	74	30	
		構成比	56.10%	62.50%	
		調整済み残差	-0.8	0.8	
	あまり重視していない	度数	20	12	
		構成比	15.20%	25.00%	
		調整済み残差	-1.5	1.5	
	重視していない	度数	0	1	
		構成比	0.00%	2.10%	
		調整済み残差	-1.7	1.7	
親や兄弟と一緒に食べること	とても重視している	度数	69	20	$\chi^2=5.796$ $p=0.055$ n.s.
		構成比	51.90%	41.70%	
		調整済み残差	1.2	-1.2	
	重視している	度数	62	24	
		構成比	46.60%	50.00%	
		調整済み残差	-0.4	0.4	
	あまり重視していない	度数	2	4	
		構成比	1.50%	8.30%	
		調整済み残差	-2.3	2.3	
	重視していない	度数	0	0	
		構成比	0.00%	0.00%	
		調整済み残差	0	0	
食事づくりや準備にかかわること	とても重視している	度数	23	8	$\chi^2=0.799$ $p=0.850$ n.s.
		構成比	17.40%	16.70%	
		調整済み残差	0.1	-0.1	
	重視している	度数	74	27	
		構成比	56.10%	56.20%	
		調整済み残差	0	0	
	あまり重視していない	度数	33	13	
		構成比	25.00%	27.10%	
		調整済み残差	-0.3	0.3	
	重視していない	度数	2	0	
		構成比	1.50%	0.00%	
		調整済み残差	0.9	-0.9	
食べものを話題にすること	とても重視している	度数	19	7	$\chi^2=2.325$ $p=0.508$ n.s.
		構成比	14.30%	14.60%	
		調整済み残差	0	0.1	
	重視している	度数	70	21	
		構成比	52.60%	43.80%	
		調整済み残差	1.1	-1.1	
	あまり重視していない	度数	42	20	
		構成比	31.60%	41.70%	
		調整済み残差	-1.3	1.3	
	重視していない	度数	2	0	
		構成比	1.50%	0.00%	
		調整済み残差	0.9	-0.9	

4. 考察

本報では、保育所の食育に対する保護者の満足度と家庭での食育との関連を検討してきた。保育所の食育への満足度が高い保護者は、保護者に対する食を通した支援についても満足度が高かった。また、それが子どもの会話を通して家庭に波及効果を持つこと、家庭での食育の重要性の認識にも関連することが明らかになった。

幼児を持つ保護者の育児不安を軽減し、家庭での食を支える場として、保護者からのグループインタビューから、地域のさまざまな機関における保育所も拠点の一つとしてあげられていた^{8,9)}。

しかし、本研究にはいくつかの限界点が存在する。第一点として、対象園についてである。本研究が対象とした保育所は平成23年実践事例活動報告をしている園とした。そのため、保護者の園の食事・食育に対して「とても満足している」と回答した人が全体で約7割強、「満足している」と回答した人が全体約3割弱占めており、「あまり満足していない」「満足していない」という保護者はみられず、保護者から高い評価が得られている保育所が対象となったため、満足度の低い理由やそうした家庭での食育への効果は明らかにできなかった。今後、食事・食育の実践が発展途上にある保育所も対象園に加えることで、より詳細な検討をしていくことが必要である。

保育所での食事・食育の満足度は保育内容以上に高いといわれる¹⁰⁾。「保育所保育指針」に、食育の重要性が位置づいたことで、保育所での食育の実践もより一層広がってきている中、園の食育に対する保護者の満足度が非常に低い保護者は多く存在しないのかもしれない。しかし、そうした保育所での支援が家庭での食事・食育にどのようにしたら、良い影響を及ぼすのか、詳細な検討が必要である。

第二点として、食育の満足度を評価する園児の対象年齢である。本報は3歳児の保護者を対象として質問紙調査を実施した。この時期を対象として設定した理由は、3歳の時期は幼児期の中でも子どもの食発達が安定した時期に入り、5歳児のように就学に関心が集まる前の段階であること、保護者の食への興味も低減していない時期である

と考えたためである。本結果から、保育所での食育の満足度と、「お腹がすくリズムができていくこと」「食べたいもの好きなものが増えること」に対しては保護者の重要性の認識に関連がみられたが、「親や兄弟と一緒に食べること」「食事づくりや準備にかかわること」「食べものを話題にすること」に対しては関連が認められなかった。これは対象児が3歳児クラスであったためであり、5歳児では「食事づくりや準備にかかわること」「食べものを話題にすること」への重要性の認識が関連する可能性も考えられる。今までの保育所で食事・食育内容の実践の蓄積や家庭の波及効果の経験を考慮すると、5歳児のような年長児を対象に加え、その違いも検討すること必要である。逆に、授乳や離乳食、また、幼児食までの移行期にある0・1歳の保護者等では、食を通した支援へのニーズが高いことを考えると、そうした対象での検討も不可欠と思われる。幼児の年齢によって保護者の食への関心度や保育所での食育の満足度に違いがみられるか等の検討をしていく必要がある。

第三に、保育所での食事・食育内容に満足しているということは家庭での食育の充実度が低い可能性があること、家庭での食育を大切にしたいという認識が高い保護者ほど保育所での食育への満足度が低い可能性もあり、今後、さらに検討を進めていきたい。

以上のような限界はあるものの、本研究により、保育所での食事・食育の満足度が保育内容と深い関連がみられること、食を通した保護者に対する支援、すなわち、連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通して保育所での子どもの様子や日々の保育の意図の伝達、園だよりや園内の掲示などでの食育実践への協力依頼・報告、送迎時の対話や面談等による食に関する相談や助言をすることと大きく関連していることが示された。

5. まとめ

保育所での食育実践度を保護者がどのように捉えているか、また、家庭の食育にどのような影響を与えているかを検討した結果、以下の点が明らかになった。

- (1) 保護者は保育内容の満足度と同様に、また、それ以上に保育所での食事・食育に対して満足度が高い。園での保育内容への満足度が高いと、食事・食育内容の満足度も高い傾向を示した。
- (2) 保育所の食育の満足度の高さで保護者を2群に分けて検討してみた結果、「園の食事・食育内容の満足度高群では中・低群に比べ、次のような保護者への園でのいずれの取組に対して高い評価をしていた。①連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通した、保育所での子どもの様子や日々の保育の意図を伝達すること、②園だよりや園内の掲示などによる、保育所での食育実践への協力依頼・報告をすること、③送迎時の対話や面談等による、食に関する相談や助言をすることであった。
- (3) 保育所の食事・食育活動が子どもとの会話を通して、家庭に影響を与えることを仮定して検討した結果、保育所の食事・食育満足度が高い保護者の子どもが保育園での食事や食育活動について家庭で会話が多いという顕著な結果が得られた。
- (4) 園での食事・食育に対して利用者である保護者の満足度を上げるだけでなく、家庭での食育に対しても重要性の認識を高めているかを検討した。園での食事・食育に対して満足度がとても高い保護者では、他に比べて、お腹がすくリズムができていくこと、食べたいもの好きなものが増えることに対して「とても重視している」との回答が多かったが、親や兄弟と一緒に食べること、食事づくりや準備にかかわること、食べものを話題にすることに対しては顕著に重視しているという結果は得られなかった。

なお、本研究は社会福祉法人日本保育協会「保育所食育に関する調査研究」⁴⁾の一環として実施したものである。

文献

- 1) 白木 裕子：幼児をもつ保護者の食生活と食育への取り組みとの関連，日本小児看護学会

- 誌21 (3) , 1-7, 2012
- 2) 厚生労働省：『保育所保育指針』, 2008
 - 3) 酒井治子, 安梅勅江, 榎原洋一, 廣瀬志保：保育所の食育プログラムのプロセス評価と結果評価, 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「乳幼児の発育・発達段階に応じた食育プログラムの開発と評価に関する研究」, 平成17～19年度厚生労働科学研究費補助金子ども総合研究報告書, 105-147,2008
 - 4) 社会福祉法人日本保育協会：『保育所食育実践事例集Ⅵ』, 2012
 - 5) 酒井治子：平成15年度児童環境づくり等総合研究事業報告書「保育所における食育のあり方に関する研究」こども未来財団, 1-170, 2004
 - 6) 厚生労働省雇用均等家庭局保育課：「たのしく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」, 2004, 平成16年3月29日 雇児保発第0329001号 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知
 - 7) 酒井治子：平成15年度児童関連サービス調査研究等事業報告書「子育て支援拠点における食育の地域連携ネットワーク構築に関する研究」, こども未来財団, 9-48, 2010
 - 8) 中島 正夫, 安江 亜希, 小林 京子他：「家庭における食育の推進」のための保護者の支援（第1報）幼児を持つ保護者の「子どもの食」に関する意識について（質的調査）, 椋山女学園大学研究論集 自然科学篇（40）, 47-56, 2009
 - 9) 小林 京子, 中島 正夫：「家庭における食育の推進」のための保護者の支援（第2報）幼児を持つ保護者の「子どもの食」に関する意識について（量的調査）, 椋山女学園大学教育学部紀要 2, 99-111, 2009
 - 10) 東京都社会福祉協議会：『保育園を利用している親の子育て支援 ニーズに関する分析と提言～親から寄せられた「自由記述」の分析から～』, 2007
-
- (受付 2013.3.27 受理 2013.5.23)

資料

保育所と家庭での食育に関するアンケート

問1 お子さんについての質問をさせていただきます。

お子さんの年齢	満 歳 ヶ月	性 別	男 ・ 女
お子さんは何人きょうだいの何番目ですか	きょうだい () 人の () 番目		
どなたと同居していますか (あてはまるものを全てに○)	① 母親 ② 父親 ③ 祖父母 ④ きょうだい ⑤ その他 () 人		

問2 あなた(回答してくださっている方)についてお尋ねします。あてはまるものに○をつけてください。

- 1) お子さんとの関係 ① 母親 ② 父親 ③ 祖母・祖父 ④ その他 ()
- 2) 現在の年齢 ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代以上
- 3) 育児は楽しくて幸せだと思いますか ① はい ② いいえ ③ なんともしえない

問3 家庭では次のようなことを重視していますか。1～4のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | とても重視
している | 重視してい
る | あまり重視
していない | 重視していない |
|----------------------------|---------------|------------|----------------|---------|
| 1) お腹がすくリズムができていくこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 食べたいもの、好きなものが増えること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 親や兄弟と、一緒に食べること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 食事づくりや準備にかかわること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) 食べものを話題にすること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

問4 保育園での次の点について満足していますか。1～4のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | とても満足
している | 満足してい
る | あまり満足
していない | 満足していない |
|-------------------|---------------|------------|----------------|---------|
| 1) 園の保育内容…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 園の食事・食育内容…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

問5 保育園では次のような活動をしていますか。1～4のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | とてもよくあ
てはまる | あてはまる | あまりあて
はまらない | あてはまら
ない |
|---|----------------|-------|----------------|-------------|
| 1) 連絡帳や送迎時の対話、給食試食会や行事を通して、
保育所での子どもの様子や日々の保育の意図を伝えてくれる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 園だよりや園内の掲示などを通して、
保育所での食育実践を報告してくれる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 送迎時の話や面談等で、食に関する相談をのってくれる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

問6 お子さんは、保育園での子どもの食事・食育活動について、ご両親にお話しをしますか。1～4のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 よく話す 2 ときどき話す 3 あまり話さない 4 ほとんど話さない

問7 お子さんは、どのくらいの頻度で朝食を食べていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 毎日食べる 2 週に4・5日食べる 3 週に2, 3日食べる 4 食べないことが多い

問8 保育園での子どもの食事・食育について、ご意見・ご要望をお書きください。
